

図書だより 読書感想文特集

2021. 7月



もうすぐ夏休みです。今年も本を読んで、青少年読書感想文全国コンクールに応募しましょう。対象の本は、課題図書と自由図書の2種類があります。夏休みになる前に本を読んでおくと、あとは書くだけです。早めに準備しましょう。

第67回青少年読書感想文全国コンクール 課題図書の紹介



『with you』 濱野京子著／くもん出版

家族のなかで自分の存在意義を見いだせない中3の悠人は、公園で知り合った少女・朱音に恋をする。朱音が病気の母親の介護や幼い妹の世話、家事をひとりで背負うヤングケアラーであることを知り、彼女の力になりたいと思うようになるが…。



『アーニャは、きっと来る』 マイケル・モーポー 著／評論社

第二次世界大戦中のフランスの山間部。ヒツジ飼いの少年ジョーは、ふとしたことで、ユダヤ人の子ども12人の亡命に手を貸すことになる。ドイツ兵が駐留しているなか、村人全員をまきこんだ大騒動の逃亡劇。さて、その行方は…。



『牧野富太郎 日本植物学の父』 清水洋美著／汐文社

「日本植物学の父」と言われる牧野富太郎の研究にける情熱と生き方、支えたまわりの人物などを紹介する。植物のつくりや分類のしくみなど、科学的資料も満載。



『青少年読書感想文全国コンクール入賞作品集』 毎日新聞出版もあひます！⇒

《おすすめ自由図書》

家族



『青空のむこう』 アレックス・シアラー／求竜堂

突然の事故で死んでしまった少年ハリー。あるときハリーは青空のむこうから地上に降りてくる。やり残したことがあるから…。



『博士の愛した数式』 小川洋子／新潮文庫

「ぼくの記憶は80分しかもたない」博士の背広の袖には、そう書かれた古びたメモが貼留めてあった。あまりに悲しく暖かい、奇跡の愛の物語。



『ホームレス中学生』 田村裕／幻冬舎

父親の解散宣言で、13歳の僕は突然家を失う。笑って泣ける貧乏自叙伝。



『生きるほくら』 原田マハ／徳間書店

いじめを受け、引きこもりだった麻生人生。母にも見捨てられて、夢科で一人暮らしを続ける祖母を訪ねた。



名作



『モモ』 ミヒャエル・エンデ／岩波書店

この世にあらわれた時間泥棒のせいで世界は荒んでいく。人々を救ったのは無口な少女「モモ」だった。



『羅生門』 芥川龍之介／理論社

荒れ果てた門の上で行き場を無くした男が見たものは、死体の髪を抜く老婆の姿だった…。



『高瀬舟』 森鷗外／角川文庫

自殺に失敗し、苦しむ弟。彼を殺して島送りにされる喜助に、罪はあるのか…。



裏に続く…

青春



『きみの友だち』 重松清／新潮文庫

「友だち」の本当の意味をさがす連作長編。

『カラフル』 森絵都／文春文庫

死んだはずの僕は、自殺を図った少年の体にホームステイすることになった。

『夏の庭』 湯本香樹実／福武書店

僕は、人が死ぬ瞬間を見たいという好奇心から、一人暮らしの老人を見張ることにした。喪われ逝くものと、決して失われぬものとに触れた少年たちを描く清新な物語。

『フラダン』 古内一絵／小峰書店

女子率100%のフラダンス愛好会に集められた4人の男子高校生。震災から5年後の福島を舞台に描く、とびきりの笑顔と涙の青春ストーリー。

『一瞬の風になれ』 佐藤多佳子／新潮文庫

中学時代はサッカー部だった主人公新二は、高校の陸上部で自分の才能を開花していく。

『西の魔女が死んだ』 梨木香歩／新潮文庫

中学生になってから不登校になってしまった少女まいは、その夏を西の魔女と一緒に過ごした。

『君の隣をたべたい』 住野よる／双葉社

偶然、僕が拾った1冊の文庫本。それはクラスメイトである山内桜良が綴った、秘密の日記帳だった。

『夜のピクニック』 恩田陸／新潮文庫

全校生徒が夜を徹して80キロ歩き通すという北高の伝統行事、歩行祭。貴子は3年間誰にも言えなかった秘密を清算するために歩行祭に臨む。

『いちご同盟』 三田誠広／集英社文庫

「あたしと心中しない？」ガラス細工のように繊細な少年の日の恋愛と友情、生と死をリリカルに描いた物語。



考えさせられる



『君たちはどう生きるか』 吉野源三郎／マガジンハウス

知的好奇心旺盛なコペル君は、父親代わりのおじさんに導かれながら成長していく。

『アルジャーノンに花束を』 ダニエル・キイス／早川書房

32歳になっても幼児並みの知能しかないチャーリー・ゴードン。手術により彼の知能は向上し、ついに天才へと変貌する。知を求めさまよう青年がやがて知る、ほんとうの愛とは？

『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』 ブレイディみかこ／新潮社

大人の凝り固まった常識を、子供たちは軽く飛び越えていく。世界の縮図のような日常を描く、落涙必至のノンフィクション。

『クジラのおなかからプラスチック』 保坂直紀／旬報社

海のプラごみ汚染。このままでは2050年に海の魚の重量を上回るといわれるプラスチックごみ。今世界が最も注目する環境問題がよくわかる。

『杉原千畝物語 命のビザをありがとう』 杉原幸子／金の星社

1939年リトアニア日本領事館の杉原千畝は、外務省の命令に背いてユダヤ人のためにビザを発給し続けた。

*** 図書室に展示してありますので、見に来てくださいね ***